

東
山
会 会

東 山 会 関 西 支 部 便 り

平成22年（2010年）度

東
山
会 会



平成21年度支部総会写真
(写真の参加者氏名は裏面に記載)

名古屋大学工学部機械系学科同窓会
東山会関西支部



所邦彦

和田滋憲

荻原稔蔵

兼松昭

白井良明

青山信英

若山吉兼

大野玲

市川徹

深谷修

黒田博

山田晃

白木博明

安田幸伸

川地秀和氏

東山会会長

教授山田陽滋氏

名古屋大学大学院

松田保

田中洸

目 次

	(頁)
1. 東山会関西支部について	1
支部長 安田 幸伸 (昭和39年卒)	
2. 第47回東山会関西支部総会講演録 (H21年11月7日)	2
テーマ:「大学の近況」と「人間とロボットの共生」	
名大大学院工学研究科教授 山田 陽滋氏 (東山会本部来賓)	
3. (会員寄稿) 中国瀋陽・大連環境視察旅行中に感じたこと	8
深谷 修 (S34年卒)	
4. 平成21年度東山会関西支部総会報告	11
幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒)	
5. 同好会報告	14
(1) 「囲碁の集い」報告	
庶務幹事 深谷 修 (昭和34年卒)	
(2) ゴルフ同好会報告	
ゴルフ担当幹事 市川 徹 (昭和43年卒)	
6. 平成21年度東山会関西支部会計並びに監査報告	16
会計幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒)	
会計監査 山田 晃 (昭和33年卒)	
7. 編集後記	17

1. 東山会関西支部について



支部長 安田 幸伸 (昭和 39 年卒)

東山会関西支部会員の皆様、ご壮健にてご活躍でしょうか？ 本年（平成 22 年）は年初より新聞、TVのニュースで、地球温暖化に伴う気候変動で異常気象が心配されてきました。予想が的中してか、昨今では、ロシアで猛暑で火災多発、中国では豪雨で 1.3 億人が被災、南米では大寒波で凍死者 200 人、日本でも梅雨明け後、猛烈な暑さが、更に又一転して大雨列島で、道路の冠水、川の氾濫、土砂崩れが局地的に発生しております。新聞の見出しではありませんが、「異常気象、地球が悲鳴」との報道がされています。世界的視野での対策、コンセンサスが求められます。

さて、この支部便りを皆様にお届けする前後になると思いますが、全学同窓会総会とホームカミングデー、10 月 16 日（土）に名古屋大学で開催されます。昨年は大学創立 70 周年にあたり、改装された豊田講堂で各種のイベントが記念事業として開催されました。キャンパスも見違えるように整備され、大学へのアクセスも非常に便利になってきておりますので、是非一度こういうイベントの機会に変貌してゆく大学を訪問されては如何でしょうか？ ひょっとして懐かしい同窓生、一緒に汗したサークル仲間に出会えるかも知れません。

東山会関西支部につきましては、会員相互の親睦、懇親を活動の中心として運営をしております。国立大学法人化を機に、大学の自主経営が求められ、名古屋大学としては、産、学、官、卒業生との連携をより密接にするため、各全学同窓会支部への積極的な参加と同時に、それらを一体化とする全学同窓会活動への組織化が計られました。当支部としてもその一翼を担っています。こうした背景の中で、当支部活動も全員お互いに横の連携を計りながら、気楽に参加できるように継続した活動をしてゆきますのでご協力をお願いします。

2. 第47回東山会関西支部総会講演概要（H21年11月7日）

テーマ：「大学の近況」と「人間とロボットの共生」



名古屋大学大学院工学研究科教授
山田 陽滋氏

名古屋大学機械工学専攻の山田と申します。「大学の近況」と「人間とロボットの共生」というタイトルで話題をご提供したいと思います。

1. 大学の近況

まず、名大の最近の話題のご紹介ですが、今年（H21年）の話題ではまず名古屋大学創立70周年記念事業が挙げられます。前身校の期間も含めると創基138周年となり大変な歴史だと思えます。プレ事業では一昨年、昨年からいろいろ行われてきました。そしてこの秋のホームカミングデイの機会に70周年記念事業が改装になった豊田講堂において記念フォーラムと名古屋フィルによるコンサートが盛大に行われました。

次の話題は国の国際化拠点整備事業（「グローバル30」と呼ばれています）で、国際化を進め国際的な人材を育てようという名大の事業案が国に採択されました。これは、例えば授業を英語で行うとか、欧米の留学生を受け入れやすくする海外拠点を作るなどの拠点整備事業です。グローバル30ですから全部で30校が選ばれますが、今年は国立7校、私立6校の13校の中に名大が入りました。名大では理系で4つ、文系で1つコースに分かれますが、機械系では自動車工学コースが対象に入っており、どんなことを教えていこうかと今検討しています。

それから“ノーベル賞の感動覚めやらず”ということで益川先生、小林先生、下村先生のお三方ですが、やはり相変わらず名古屋大学のレクチャーであるとか記念講演が行われ広報誌などでも賑わいがあります。また、風の噂では記念に理学部に新しい棟を建てるということです。

今年（H21）4月1日、名大総長が平野総長から濱口総長に代わられました。「勇気ある知識人の育成」という名大のそもそものポリシーに対し、地域に深く根ざし、国

際的に広く開かれた大学にするということで、分野横断的な研究間の交流を密にした大学院教育重視、改革の実施をするということになっています。

次は工学部の話題です。GCOE(Global Center of Excellence)の名大からの申請が昨年、文科省で採択され進行中です。事業組織の整備がなされ定期的な講演会、人材の国際交流をはじめかなり活発に行われにぎやかに盛大に進められていますが、新しくは工学部3号棟西側にGCOE実験棟というものが今年6月に完成いたしました。

その他、先輩方には懐かしい話だと思いますが、中央食堂の経営が変わり、七味亭という名でリニューアルされました。私の学生時代は中央食堂はあまり人気なくて生協が終わってしまうと行くという感じでしたが七味亭に変わってもあまり変わらないと思います。人気はマイノリティーですが、営業時間が長いなどの特徴を維持しており、息長く続けてもらいたいと思います。南部食堂では食中毒事件がありましたはこちらの方もリニューアルしています。

2. 人間とロボットの共生

(1) ロボット産業政策の全体像

ここから「人間とロボットの共生」と題し私の研究テーマを中心にお話しいたします。私は名大に赴任(H20年)する前、産総研(産業総合研究所)でナショナルプロジェクトに参画しておりました。そこでの内容をお話しする方がスケールの大きな話しになるかと思えます。まず私が産総研に呼ばれた理由をお話します。ロボット分野で製造業を中心に生産の自動化に大きく貢献してきた“産業用ロボット”は安全柵で囲われ人とは隔離された状態です。今回お話しする“サービスロボット”と呼ばれる次世代ロボットは、直接人間にサービスするロボットですが分野も広く、将来的な労働力或いは高齢化への人材不足などを補うなどの目的で開発が大いに進められています。また、これに対する企業の技術力も上がっています。しかし、人間と直接共存してサービスを提供するには特に人間への安全性の確保が必要で、安全のセクションを担当するようにと私を産総研に呼んでもらいました。そして名大に来る前4年間、「安全知能研究グループ」というグループを作り、社会に出せるロボットにしておくための研究をしていました。

産業用ロボットは年六千億円の市場規模です。しかし現在の“介護ロボット”と言われる市場規模は小さくその拡大が必要です。ここで医療・福祉分野へのロボット市場規模拡大には低価格と安全が非常に重要になります。自分のところのロボットは安全だと言っても信用してもらえません。ここに規格が大きく関わってきます。ロボットのセンサ等要素技術の安全化を進めそれを国際安全規格としていく。そしてその安全規格に準拠したものを使ってロボットシステムを構築するサイクルに加え、国際安全規格作りもコントロールの対象とすることを産総研では研究フレームワークとしました。

2004年の愛知万博で掃除や警備などでロボットのデモンストレーションがクロー

ズアップされたことを覚えておられる方も多いかと思います。これが足掛かりとなって国のロボット実用化に向けてのプロジェクトが走り出しました。最初のプロジェクトは介護福祉の分野での実用化を図る“人間支援型ロボット実用化プロジェクト（05～07年）”です。また、“戦略的先端ロボット要素技術開発プロジェクト（06～10年）”は産業や災害など特殊環境用での「本格的実用ロボット」を目指し先端技術開発を行っています。これらは技術屋が勝手に自己満足するロボットを世に出すのではなく、“現場が要求するサービス”に対応するロボットの技術開発を目指しています。その他30年先くらいの実用化を目指すハイレベルな“次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト”も進めています。予算的には、例えば今年（09年）始まった“生活支援ロボット実用化プロジェクト（09～13年）”は19億円くらいが予定されています。

（2）人間支援ロボット実用化基盤技術開発プロジェクト

先ほど申しましたようにサービスロボットの場合は、事業性と安全性を重視して開発する必要があります。2005年から始まった「人間支援ロボット実用化基盤技術開発プロジェクト」をご説明します。これは急速に進む少子高齢化でニーズの拡大が予想される福祉介護分野で使用される人間支援型ロボットの実用化基盤技術開発を目的とします。開発初期段階から介護施設等のロボットユーザーの意見を取り入れて、現実のニーズに即したロボットを開発し、実際のユーザーでの実証試験を実施して安全性を検証することとし、次の3項目を開発目標に挙げております。

- ① リハビリ動作支援ロボット及び実用化技術の開発
- ② 自立動作支援ロボット及び実用化技術の開発
- ③ 介護動作支援ロボット及び実用化技術の開発

各開発項目それぞれに対し、いくつかのメーカーが提案してプロジェクトを分担実施いたします。①で3社、②で3社、③では1社が提案実施する3年間のプロジェクトです。メーカー各社には提案だけでなく実証試験が義務づけられます。事業化計画は必ず必要で、国からの研究補助を受けるハードルはかなり高いと言えます。以下、開発成果の事例をご説明します。

1. MR 流体ブレーキを応用した下肢支援ロボット

MR 流体ブレーキとは磁石の力で抵抗が自在に変化する特殊な流体ですが、この特性を利用して足関節の動きを自由に制御する装具が下肢支援ロボットです。脳卒中片麻痺障害者の麻痺側の足に装着し歩行を補助します。装具に付けた各種センサーが歩行状態や路面状況をチェック、自動的に判別し、坂道や不整路でも最適な歩行制御が可能で滑らかな足関節の動きを可能にしました。

2. 脳卒中片麻痺患者用上肢リハビリ支援ロボット

脳卒中などにより麻痺した片方の手の運動機能回復のために開発されたロボットです。機能の健全な手の関節角度を計測する手袋をつけて手を動かすと、麻

痺した側の手に付けられた装置が左右対称に動きます。複雑な動きが求められる上肢のリハビリ支援システムの開発は世界初めてのものです。患者はいろいろな作業を通して上肢機能の回復を図ります。

3. 筋力向上トレーニングロボット

高齢者の介護予防のための筋力トレーニングを安全かつ効果的に行えるロボットです。上肢及び下肢の主要な筋力のトレーニングがこの1台で安全かつ効果的に行えます。負荷方向の切り替え、負荷の調整でバランスの良い筋力のトレーニングが可能です。また、運動する人の状況をモニターし適切な負荷調整を自動的に行います。国としては元気な高齢者に沢山使ってもらおうと考えています。

4. 上肢機能支援ロボット

障害を持つ人の腕の代わりとして機能するロボットアームです。頸髄損傷や関節リウマチなど多様な身体症状に合わせられる操作装置で、コップを口元へ運ぶなど様々な日常生活動作をサポートできます。国際規格リスクマネジメントに基づいた安全性を構築しています。

5. ロボットスーツ HAL

人と一体化し歩行支援するロボットスーツです。使用者に合わせた歩幅での歩行、車椅子からの立ち上がりが可能で、支援機能をユニット化することで両脚型、片脚型、単関節型など症状や支援箇所に応じた組み合わせが可能です。ロボットが人と一体化して動くことを実現しました。ロボット業界からの有名な提案で大きく期待されています。人が運動しようとする際に出す電気信号を読み取り自律的で自然な動作を実現しています。

6. トイレアシスト

便器と車椅子の移乗支援機能、姿勢保持支援機能、清拭動作支援機能等により排泄時の間接介護の精神的、肉体的な負担を大きく軽減します。

これらは事業化が進められているのですが、この中にはさらに他のプロジェクトにも乗って、その後も研究開発が継続促進されているものも幾つかあります。

私は産総研でトイレアシストをメーカーと一緒に開発しました。今の介護施設は幾つかの個室に対して一つのトイレを共同で利用していますが、トイレに行くまでの事故が非常に多いんです。逆にトイレを移動させるという考え方は平成14年頃に提案されましたが、その時解決できなかった問題はトイレが近くに来てでも便座へ移乗させるためにはやはり人が必要で、それは大変な労働だということです。これを解決するために便座に対し3次元的に移動できるユニットがフィットして上下するものを目指して提案しました。実際はメーカーも急な実現は難しいので一歩ずつやっています。ただ、要素技術としては洗浄範囲を広げたり、短時間乾燥などを併せ実用化できるところまで来ました。

その他、私のプロジェクトで非常に大変だったのが安全性の問題です。特に要介護

度が一番高い人を対象にし実際の施設で実験をするのですが、この場合、高齢の方々とはやっとコミュニケーションができるくらいで、同意書の署名一つをとっても、倫理委員会で認められた方向で、被験者ご本人とずっと生活をともにするなどして彼らから許可をやっとももらいました。その後スタッフが入って順番に実験をやります。その他、個人情報保護などいろいろの問題があります。理学療法士ほか多くの人が関与しますが、介護施設側も総動員のお手伝いでやっと実証試験ができたという状況でした。その成果として、トイレアシストの排泄時移乗作業支援装置の利用で介護者の作業負担の大きな低減と安全性が検証できました。

(3) 戦略的先端ロボット要素技術開発プロジェクト

次に私は製造業でのセル生産でロボット化を進める「戦略的先端ロボット要素技術開発プロジェクト」というナショナルプロジェクトに参画しました。これはまだ走っているプロジェクトなので大まかなことしかお話し出来ません。セル生産の現場は安い労働力を求めて海外に出て行くものが多いのですが、一旦海外に出ると製品がコピーされ価格競争の波に乗る危険があります。価格の高いものは国内での生産を考えますが、海外からの出稼ぎ労働者など使いますと品質に一定のレベルを確保できるかが問題になります。変種変量生産で生産量が変動する場合などロボットに必要な部分の加工を対応させるなどが可能です。生産作業ではロボットは作業が人と隣り合う必要性もあり、人の安全性を確保することを目指します。

(4) 生活支援ロボット実用化プロジェクト

日本の社会構造の中で制度設計をしながら安全性を重視して本当に外に出せる多くのロボットを作り出すため NEDO は「生活支援ロボット実用化プロジェクト」を始めています。実用化が近い実用化されているロボットばかりです。例えば

パナソニック (株) : ベッドと車椅子が統合され移乗、移動支援をするロボットシステム

サイバーダイン (株) : 人が装着し歩行などを支援するロボットスーツ

富士重工 (株) : ビルの清掃ロボット

トヨタ自動車 (株) : 搭乗型 2 輪移動装置

などは NEDO の委託で開発しています。それぞれは医療機関等と安全性の評価等を行っていきます。これら生活支援ロボットの安全性を保証する第三者機関が日本に欲しいのですが、現在はドイツやイギリスや米国にありますので海外の認証を受けてしまうことになります。国際的に名だたる認証機関に対抗して日本に認証機関をすぐに作れるものではありません。結局、世界中を見渡して日本でしか認証できない技術を作ることが必要になります。日本にしか出来ないという技術を作りながら認証機関を育てることは、すぐには難しいかもしれませんが、5 年以上先を考えた場合の近道だと思います。産総研などの研究機関が試験検証方法などを提案し安全性試験機関、安

全性認証機関を設立し生活支援ロボット製造業者からの試験や認証依頼に対応する体制構築が進められています。サービスロボットの場、例えば一般歩道を利用する時など一般市民がその安全性に影響されますので、安全性を担保する仕組み作りのため規制・規格・認証と補償機関などを含めた社会構造を作って製品化する制度設計を2004年から行っています。

その他、我が国の省庁もやはりロボットに対する取組みをやっていきます。総務省下の消防庁では消防活動で利用するロボット、名古屋市守山区のある文科省下の理化学研究所バイオメテックコントロール研究センターでは人間を優しく抱きかかえられるロボットを開発しました。農水省では農産物の工場生産化として例えばトマトの自動収穫、国交省では建設現場で不安全な場所を対象とした無人化ロボットの開発、海中の探査作業の無人化ロボットの開発などがそれぞれの分野での取組み事例です。

以上、日本のロボットの实用化、サービスロボットと言われるロボットの技術、或いはそれを取り巻く社会構造がどのような状況にあるかをご紹介しました。どうもご清聴ありがとうございました。

3. (会員寄稿)

中国瀋陽・大連環境視察旅行中に感じたこと

深谷 修 (S34年卒)

1. 視察旅行参加の経緯と概要

私の所属している中小企業診断協会内に国際派診断士研究会がある。この研究会では昨年(2009年)、環境をテーマに中国東北の瀋陽(旧奉天)、大連(いずれも遼寧省)への視察旅行を実施した。当研究会の梶巻正夫会員がJICAのシニアアドバイザーとして、瀋陽市の環境保護局で活躍中で、中国東北部の環境視察を提案され研修旅行を実施することになった。中国は世界の工場として目覚ましい発展を遂げつつあるが他方、地球温暖化、大気汚染、水質汚染など地球環境問題、地域環境問題で深刻な課題を抱えている。

視察期間は2009年9月14日(月)から19日(土)、参加者は7名、そのうち環境の専門家2名、ITの専門家2名、その他、製造業出身者3名である。小生は勉強のため同行した。この間、梶巻会員の仲介の労により瀋陽市、大連市の水処理や廃棄物処理などの状況を視察できた。また、在瀋陽日本総領事館の松本総領事を始め、現地官公庁や企業の方々と意見交換する機会があり、有意義な旅行であった。

この視察内容等の詳細は別途報告書で報告されたが、当報告書に旅行中の見聞で面白い記述があるので以下に紹介する。なお、文章の一部に補強・修正を入れた。

2. 中国東北地方雑感

①建設ラッシュと貧富の差

瀋陽国際空港を通過して、市内中心部に向かう片道3車線の高速道路が工事中で、まもなく完成するとのことであった。一党独裁国家なのでさしたる障害もなく、計画から完成に至るスピードは、日本などと比べると、はるかに速いということである。

高速道路は工事中のため、古くからの町並みの残る既存道路で市内へ向かったが、空港をスタートしてまもなく、道路の両側にポツリ、ポツリと大規模住宅団地開発が目につき始めた。豪華な一戸建て住宅に始まり、中心部に近づくに従って高層マンションへと変わっていった。高層マンション団地も10数棟単位の大きなもので、ちょうど高度成長期の日本の団地開発と同じ感じであるが、高層であるだけに圧倒される感じであった。こちらの住宅団地は、団地全体を大きな塀で囲み、立派な門から入ってゆく構造になっており、非常に豪華なものであった。

近郊の農家では、宅地開発業者に土地の使用権を売り、大金持ちになった者も

少なくないとのことである。一方で、市内から遠く外れた農村地帯などでは、古いレンガ造りの粗末で、狭い家が目立ち、貧富の差が拡大しているという事実の一端が実感できた。

②衛生観念

瀋陽市内中心部のかなり大きな中華料理店の横の、埃だらけの歩道の上に、大きな魚が何にも敷かれずに直に置かれていた。見ているとどうやらそれは、仕入先から届けられて来たばかりで、これから調理されるのを待っているものようであった。日本であればトロ箱にでも入れるか、何か敷いて置くところである。洗えば同じという考えであろうか、我々の感覚では、生で食べるのは勿論、煮たり焼いたりして食べるのにも抵抗感がある。

とは言いながら、その店が例外的に衛生観念に欠けた店であるとは考えられず、他も似たり寄ったりではないのか。毎日美味しい、美味しいと言いながら（本当に美味しかった）食べていたし、別にお腹の具合も悪くなるようなことはなかった。

③流通業は未発達

市内中心部の百貨店は、外見上は日本の百貨店に比べて遜色はなかった。価格も日本とほぼ同じで、給与水準に比較するとちょっと高いなと感じた。

一方庶民相手の商店は、まさに日本の昭和30年代の感覚で、便利店（文字通りコンビニエンスストア）と呼ばれる二間間口くらいの商店が至る所にあり、日本のコンビニの品種ライナップの縮小版といったところである。価格は勿論現地価格であるが、青島ビール大瓶1本が4元（約60円）であった。

④大陸的

訪問先の瀋陽市環境保護局から、次の視察地の瀋陽市西污水处理場へ向かったが、行けども行けども着かない。聞けば目的地への地図がなく、先日調べたが分からなかったのも、それと思しき方向を探しながら行っているとのこと。途中で何度も通行人に聞いたり、携帯電話で問い合わせたりして、やっと目的地にたどり着いたときには遥かに時間オーバー。次の訪問先の瀋陽ダンロップの約束があり総領事が待っているのもので、視察は中止してすぐに出発した。

ところがここでも行き道を見失ってしまい、またもや携帯電話と通行人が登場して大活躍、結局30分遅れ（まっすぐ着いていれば間に合っていた）の到着となってしまう、総領事との会談はお流れ。お忙しい方をお待たせした上にキャンセルするという、誠に失礼な結果となってしまった。しかし、梶巻さんのご尽力と領事のご好意を頂いて、翌日にお会いすることが出来、ホット胸をなでおろした次第である。

知らない場所に行くときは、事前に目的地を確認するということは、基本中の基本であり、ましてや時間に制約があったり、お客を連れてゆく場合は特にそうである。瀋陽ダンロップの方に聞くと、こういうことは日常茶飯事で、別に驚くにはあたらないとのことであった。大陸的とはこういうことかと妙に納得した次

第である。

⑤特急列車

瀋陽市から大連市までは特急列車で移動した。一面に高粱（コウリャン）畑と玉蜀黍（トウモロコシ）畑が続く東北地方の広野を、真っ直ぐに突っ切って走る約4時間の旅は快適であった。この列車の傑作はトイレである。日本ではとっくの昔にお目に掛かれなくなっている、自然放出型のトイレが健在なのであった。また、線路沿いの小川にはごみが沢山捨てられ、水も汚かった。

何れにしても高層ビルとの大きなギャップを感じた次第である。

⑥都市開発と地域環境

瀋陽、大連ともに土地が至る所で掘り返されており、都市開発の凄まじさを実感した。また両市とも中心部は自動車で溢れ、至るところで渋滞が起きていた。久しく自転車の国といわれていたものであるが、この点でも大きく進歩していることが伺えた。

街は活気に溢れ、オリンピックを成功させ、上海万博開催を間近に控えた、まさに伸び盛りの国家の熱気がひしひしと感じられ、この国の発展の確かさを実感した。

一方で、一ヶ所あたりの居住地の開発規模は、開発面積も一棟あたりの規模も非常に大きく、果たしてこれが全部入居者で埋まるのかと他人事ながら気になった次第で、不動産バブルが懸念されつつあるのも尤もだという気がした。また、現代的な高層ビルの裏側に回ってみると、昔ながらの佇まいがあったり、まさに日本の昭和30年代と現在が混在していた。

大気汚染は思った程ではなく、空は青く瀋陽市が川崎市を、大連市が北九州市を参考にしての取り組みが進んでいることが伺えた。しかし、水に関しては、大筋では対策が進んでいるものの、側溝や、田舎の小川はまさに臭うようなドブ川で、未だ手付かずの感があった。

両市内ともに満州時代の遺構が沢山残っており、問題はあるながら日中の関係の深さが伺われた。

4. 平成21年度（第47回）東山会関西支部総会議事録

幹事 和田 滋憲（昭和43年卒）

47回目の関西支部総会は大阪駅北の大阪弥生会館で行われました。名古屋大学の山田陽滋教授には「大学の近況」と「人間とロボットの共生」と題しご講演いただきました（当支部報の講演録ご参照）。総会とその後の懇親会の概要は以下のとおりです。

1. 開催日時 平成21年11月 7日（土） 15時～19時
2. 場所 大阪弥生会館 「愛宕」の間（講演会、支部総会）、「伊吹」の間（懇親会）
3. 総会概要
 - (1) 出席者（18名）
 - ご来賓 川地秀和 氏（東山会会長）
 - 山田陽滋 氏（名古屋大学大学院 教授：東山会本部）
 - 東山会関西支部会員 16名
 - (2) 支部総会
 - ①講演会 15.00～16.30 （司会：荻原稔蔵 幹事 S43 卒）
「大学の近況」と「人間とロボットの共生」 山田陽滋 氏
 - ②支部総会 16.35～17.00 （司会：白井良明 副支部長 S39 卒）
 - ③懇親会 17.10～19.00 （司会：荻原稔蔵 幹事）
4. 講演会
 - 演題：「大学の近況」と「人間とロボットの共生」
名古屋大学大学院 教授 山田陽滋 氏
 - 【講演の概要は当支部便りに掲載】
5. 支部総会
 - (1) 支部長挨拶 安田幸伸 支部長(S39 卒)
 - ・本日のご来賓と総会出席者への謝辞
 - ・山田教授ご講演への感想
 - ・関西支部機関紙「東山」（S60年創刊～4巻）発刊当事の支部活動について
 - ・若手会員動員等、今後の総会の活性化について
 - (2) 東山会本部代表あいさつ 川地秀和 東山会会長
 - ・当総会ご招待への謝辞
 - ・関西支部の長きにわたる活動に敬意
 - ・名大創立70周年記念行事が改築なった豊田講堂であったこと
 - ・名大基金への寄付依頼に対し東山会は20口（20万円）した
（豊田講堂銘板に20口以上の寄付者として刻された）
 - ・東山へ帰る日（機械系OB対象：隔年実施）は21年6月5日実施した

今年は S33、34 年卒が対象で 40 名参加された

今後も該当年の対象者は是非参加して欲しい

- ・今後ともますます関西支部が発展されるよう祈念する

(3) 会計報告 和田滋憲 会計幹事 (S43 卒)

- ・今年度から会計を和田幹事が担当
(会計報告は当支部報に記載)

(4) 会計監査報告 山田晃 幹事 (S33 卒)

- ・今年度から会計監査を山田幹事が担当
・会計報告及び監査報告は総会参加者総意にて承認された

(5) 支部規則の改定 安田 支部長

- ・日本郵政の振込み口座対応のため今回、支部規則の一部を改定したい
・原案は参加者全員の賛成で可決された

(6) 一般報告 深谷修 幹事 (S34 卒)

6 懇親会 司会：荻原稔蔵幹事

(1) 乾杯 音頭 市川徹氏 (S43 卒)

(2) 懇親会

①同好会活動報告：市川徹幹事 (ゴルフ)、深谷修幹事 (囲碁)

②参加者一言の要旨

イ. 大野玲氏 (S34 卒)：6 月の「東山へ帰る日」へ参加

- ・卒業後同窓会は 1 回しか実施されず、今回の「東山に帰る日」では同期 (50 名位) の参加は 22、3 名と多かった。当初全然分からなかった人もしばらくして面影が出て思い出した。

ロ. 黒田博氏 (S33 卒)：6 月の「東山へ帰る日」へ参加

- ・「宿泊希望」したら豊田講堂裏の立派な宿泊施設に 7 千円？で非常に便利な宿泊が出来た。50 年目に母校を見て非常にエンジョイした。

ハ. 所邦彦氏 (S40 卒)

- ・東山会本部総会には 4 回？出たのですが前回、会場のホテルで電気学科の会合の方に行ってしまい、知らずにずっとそこにいて電気学科の先輩から“なぜここに？”といわれた。

ニ. 川地秀和氏 (東山会会長)

- ・三菱重工で民間航空機開発に携わった。航空機による死亡事故に繋がる確率は 10^{-9} 以下で設計される。自動車事故では愛知 1 県で年間約 400 人死亡するが、これは毎年愛知県にジャンボ 1 機が落ちることに相当する。飛行機はご安心して利用して欲しい。

ホ. 山田陽滋氏 (東山会本部、名大大学院教授)

- ・安全はいつも経済性とバッティングし経済効果が優先され安全がおろそ

かになりがちだ。だからいつも最適化をはかるための知的な解が重要だ
ということで自分の講座を「安全知能学」と命名した。

へ. 山田晃氏 (S33 卒)

- ・10月のホームカミングデイに東山へ行って豊田講堂でバイオリン演奏を聞いたが音響効果が大変良かった。全学同窓会のホームカミングデイは一日ゆっくり見て廻る価値がある。機会があれば是非参加されるのが良い。

ト. 白井良明氏 (S39 卒)

- ・今年京都で学会が3つくらいあった。いつもは600~700名の参加だが10月にあった学会では1300人を超す人が世界から集まった。京都での国際会議は不景気な時代だが人が集まるようだ。

チ. 田中洸氏 (S28 卒)

- ・終戦第1期の卒業生だが2年に1回位「甚六会」という同期会を開き今年も京都国際ホテルで集まった。その時、私が甚六会の歌を作って皆で歌った。節は伊吹嵐なんですね。

③学生歌、寮歌等の斉唱

④閉会の挨拶 安田幸伸 支部長

今日は参加人数は少なかったが非常に盛り上がってよかった。関西支部もこれから頑張るので是非、皆様方のご協力をお願いします。

⑤閉会の三本締め 兼松昭 副支部長 (S39 卒)

今日、山田先生がご講演されたロボットには、この東山会を設立し継続することは多分できないだろう。その中でも難しい役の幹事さんに感謝しつつ三本締めをする。

以上

5. 同好会報告

(1)「囲碁の集い」報告

庶務幹事 深谷 修 (昭和34年卒)

平成21年8月から平成22年6月まで5回開催し、結果は次のとおりです。

開催日	参加人数	優勝者	成績	備考
21年8月5日(木)	7	白井2段	3勝1敗	
21年10月8日(木)	5	青山5段	3勝1敗	
21年12月				中止
22年2月25日(木)	7	兼松3段	3勝1敗	
22年4月15日(木)	7	白井2段	3勝0敗	
22年6月11日(木)	4	鷺田3段	3勝0敗	

- 現在の会員は、川口 啓造(20年卒)、松田 保(S28年卒)、岩田 恒雄(S30年卒)、清水 義一(S31年卒)、青山 信英(S32年卒)、古澤 裕(S32年卒)、鷺田 俊司(S32年卒)、大野 玲(S34年卒) 深谷 修(S34年卒)、兼松 昭(S39年卒)、白井 良明(S39年)、荻原 稔蔵(S43年卒)の12名です。
- 会場は岩田氏の計らいにより、中央電気倶楽部で、従来から偶数月の第1土曜日に開催してきましたが、木曜日開催の方が参加者が多いので木曜開催としました。
- 参加ご希望の方は庶務幹事の深谷までご連絡ください。昇段、昇級の規約を設けています。
- 21年12月から大野 玲(S34年卒)が会員に登録しました。



(2) ゴルフ同好会報告

ゴルフ担当幹事 市川 徹 (昭和43年卒)

今年 (H22) 5月17日 (月) 枚方国際カントリークラブで実施しました。好天に恵まれ、山ふじの香り、こでまり、つつじの咲き乱れるなか 2組7名の参加をいただき プレーを楽しみました。

新ペリア方式で優勝は安田さん (グロス48、47、ネット75.8)、ニアピン賞は太田さん2、市川2 となりました。

秋の分は10月に予定していますが、今までのGC四条畷、枚方CCのほかの場所でもやっていきたいと思えます。



写真左より 兼松昭 (S39卒)、安田幸伸 (S39卒)、野崎利雄 (S29卒)、山田晃 (S33卒)
和田滋憲 (S43卒)、太田吉光 (S45卒)、市川徹 (S43卒)、〈以上 敬称略〉
(H22年5月17日 枚方国際カントリークラブにて撮影)

6. 平成21年度東山会関西支部会計並びに監査報告

会計幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒)
 会計監査 山田 晃 (昭和33年卒)

下記内容の平成21年度東山会関西支部会計及び会計監査報告は、平成21年11月7日開催の東山会関西支部総会にて承認されました。(当支部報では会計及び会計監査幹事の朱印は省略しています。)

平成21年度東山会関西支部会計報告

平成21年11月7日

期間：平成20年11月22日より平成21年11月6日

収入及び前年度からの繰越金	金額 (円)	支出及び次年度への繰越金	金額 (円)
収入		支出	
1. 年会費 (53人分、振込み手数料引き)	105,240	1. 平成20年度総会費用	108,190
2. 平成20年度総会会費	105,000	2. 写真代	0
3. 東山会本部援助金	30,000	3. 支部報、総会案内制作費	31,898
4. 関東支部からの総会ご祝儀	10,000	4. 通信費	36,455
5. 預金利息	391	5. 会議費 (関東支部総会ご祝儀含む)	18,400
		6. 事務用品費、コピー費	6,204
		7. 旅費、交通費	29,120
(当年度収入計)	(250,631)	(当年度支出計)	(230,267)
前年度からの繰越金	635,371	次年度への繰越金	655,735
合計	886,002	合計	886,002

以上のとおりご報告いたします。

会計幹事 和田 滋憲

以上の報告は適正なものと認めます

会計監査 山田 晃

7. 編集後記

- 安田支部長の「1. 東山会関西支部について」では、対象年齢になられたら是非“ホームカミングデー”(2年に1回開催)に参加され、同期同窓生との再会はもちろん、すっかり変貌した名大をご覧いただき、昔を懐かしむよう呼びかけています。若手の会員の皆さんも同窓会である東山会関西支部総会に是非参加され、同窓の方々との交流をされてはいかがでしょうか。
- 「2. 第47回支部総会講演概要」は名大山田教授の“名大の近況”とご自身の研究「人間とロボットの共生」につき1時間半のご講演をいただいた概要の掲載です。少し長い報告ですが当日聴講された方も振り返り確認のためにもお読みください。“名大の近況”では名大の国際化が進められていることを知りました。また、「人間とロボットの共生」では高齢化社会や福祉社会に向け、ロボットの研究・実用化が官民で大いに進んでいる状況がお分かりいただけると思います。山田先生の今後のご活躍を期待しております。
- 「3. 会員寄稿」は何かと注目されている中国に環境をテーマに視察旅行をされた深谷修さんのレポートです。環境問題と離れて中国国情の一端が軽妙な文の中に記載されていると思います。是非お読みください。
- 「4. 支部総会報告」ではホームカミングデーにご参加された方が何人かスピーチされましたが、簡単にその内容も記載しました。

(W 記)